

メッセージ

「近畿リハビリテーション学院と辻クリニックに対する大野さんの裁判を支援する会」の発足にあたり、心から連帯と激励の意を表します。

大野輝民さんは、理学療法士をめざして入学した近畿リハビリテーション学院在学中に、実習先の辻クリニックでの指導教官からのハラスメントによって追い詰められ、自死されました。将来に向かって懸命に努力する若者の命が、過酷な労働環境と、利益本位で無責任な専門学校運営によって奪われたことは、断じて許せません。

いま、若者の雇用をめぐる状況はますます厳しさを増し、正規雇用が減少し、パートやアルバイト、派遣など、非正規雇用への置き換えが進行しています。その中で、働くルール無視の「ブラック企業」が横行し、ハラスメントも増大しており、その犠牲者が後を絶たない状況です。未来をになう若者が、希望をもって生き生き働ける社会の実現が、痛切に求められています。

府高教は、国会審議中の労働者派遣法改悪など労働法制改悪に反対し、「雇用は正規があたりまえ」の社会の実現をめざすとともに、「ブラック企業」の根絶、ハラスメントの一掃など、働くルール確立に向けたたたかいに全力をあげています。大野裁判は、そうしたたたかいの前進に向けて、大きな意義を持つ裁判です。

みなさまの運動の今後のご発展を心より祈念申し上げます。

大野裁判を支援する会 御中

2015年7月7日

大阪府立高等学校教職員組合

執行委員長 志摩 毅